

宮島(みやじま)

湿地のタイプ：砂浜海岸、塩性湿地、河川

位置：北緯34度14分、東経132度17分 / 標高：0～80m / 面積：142ha / 湿地のタイプ：砂浜海岸、塩性湿地、河川 / 保護の制度：国立公園特別地域、特別史跡・名勝 / 所在地：広島県廿日市市 / 登録：2012年7月 / 国際登録基準：2、9



ミヤジマトンボが生息する宮島



厳島神社



ミヤジマトンボ(幼虫)



ミヤジマトンボ(成虫)

宮島の概要：

宮島(厳島)は、瀬戸内海の沿岸、広島湾の北西部に位置する、長さ約10.5km、幅約3.5km、面積約30.2km²のほぼ長方形の島である。

島の最高峰は弥山(535m)で、この弥山山頂付近の原生林は我が国の暖地温帯林の代表的なものとして国の天然記念物に指定されている。また、自然に神をみる日本古来の信仰をそのまま形にし、みごとに自然美と人工美とを調和させている厳島神社は、神が降臨する場所と考えられた背面の弥山と一体で、世界文化遺産として登録された。

希少な瀬戸内の自然海岸：

ラムサール条約湿地として登録された湿地は、宮島南西部の沿岸域である。瀬戸内海の海岸の60%以上が人工もしくは半自然海岸となった今でも、海岸(汀線)に工作物が存在しない貴重な自然海岸で、瀬戸内本来の自然が今も残る。海岸線は、砂の流入と流出の量のバランスにより、安定した形で保持されており、そしてその海岸線には、山間からの湧出水と大潮時に流入する海水とが混じる潮汐湿地が形成されている。特に海水の影響を大きく受ける砂浜ではハマゴウ等の海浜植物がよく見られ、塩分濃度の低い内陸側にはヒトモトスキが優占する湿性草地在り形成されている。林縁部には、宮島の固有変種であるコテリハキンバイ等も見ら

れる。

希少種ミヤジマトンボの生息地：

海岸線の湿地には、宮島の固有亜種ミヤジマトンボが生息している。ミヤジマトンボは、上流の淡水域では産卵せず、他のトンボの幼虫が生息できないこの特有の汽水域(潮汐湿地)でのみ産卵・生育し、そこでしか生息しない。同種のものも中国の1カ所で確認されているだけである。

この希少なミヤジマトンボの保護活動は、地域のミヤジマトンボ保護管理連絡協議会が中心となって取り組んでおり、生息状況調査や、湿地周辺に堆積した土砂の除去、水路の拡張などが行われている。また、台風などの影響で生息地が破壊されることによる絶滅を防ぐため、島内の別の湿地へ生息地を拡大する、危険分散にも取り組んでいる。

条約湿地と産業のつながり：

カキ料理は宮島の郷土料理であるが、宮島のラムサール条約湿地の沖合は300年の歴史を持つ、カキ養殖に好適な漁場である。これは、宮島の原生自然を源流とする、栄養豊富な山水が沖合に流れ込んでいるためである。

< 関係自治体 >

廿日市市役所 Tel: 0829-20-0001

